

京阪グループにおける環境活動の推進について

京阪グループでは、グループ全体として環境活動を推進するため、「環境対策推進委員会」（委員長：佐藤茂雄・当社社長）を設けています。委員会では、当該年度の活動方針を決定するとともに、各社の活動推進状況を評価するなど、情報の共有化を図ることを通じて各社の環境活動への自発的な取り組みを促しています。

グループ各社の具体的な取り組みは、環境マネジメントシステムの構築・運用を大きな柱としています。具体的には、下記の4つの環境マネジメントシステムから、各社の事業内容などを勘案したうえで最適なタイプを採択し、推進するものとしています。

環境マネジメントシステムタイプ

- **認証タイプ** ISO14001、京都方式の「KES」や環境省の「エコアクション21」などの環境マネジメントシステム要求事項に適合したシステムで、外部審査機関による審査登録を行います
- **準拠タイプ** 環境ISOに準じますが、その一部を省略したシステムです
- **基本タイプ** 環境ISOの基本要素を抽出したシステムです
- **簡易タイプ** 環境にやさしい改善活動のみを取り組みの対象とするシステムです

京阪グループの環境ビジネス (by (株)かんこう・(株)ソイルエンジニアリング・成幸工業(株))

近年、国内各地でその存在が明らかになり、大きな社会問題となりつつあるのが土壌汚染の問題です。言うまでもなく、土地は人間の活動の基盤となるもので、日々の生活はその上に成り立っています。そういう意味で、この土壌汚染の問題は、私たちにとって最も身近な環境問題のひとつであり、三社は協力してこの問題の解決に取り組んでいます。

(株)かんこうは、航空測量により蓄積した航空写真などのデータやコンサルタントとしての経験を、(株)ソイルエンジニアリングは、ボーリング会社としてのノウハウをそれぞれ生かして、土地の履歴調査や土壌汚染状況の調査、さらには浄化作業についての提案などを行っています。2004年度は、両社で100件を超える調査を受注しました（両社は環境大臣および大阪府知事の指定調査機関です）。

一方、成幸工業(株)は、遮水壁などの施工で培った実績や技術力を生かした土壌改良の分野で着実に実績を伸ばしつつあります。その施工例として、鉄粉混合法による塩素系有機化合物の浄化作業や、重金属等による汚染土壌の不溶化工事などがあります。



▲SCSC式簡易ボーリングによる
土壌試料採取



▲鉄粉法による浄化作業